地球温暖化に伴う局地的大雨による 被害の軽減に向けた検討について

(趣旨)

地球温暖化によるものと懸念される局地的な大雨による被害が全国各地で発生している。 この7月28日には、金沢市の浅野川において大規模な水害が発生するとともに、神戸市の 都賀川において突然の出水による水難事故が発生した。今後、地球温暖化の進行に伴う気候 変化の激化により、このような中小河川における洪水被害や水難事故の拡大が懸念されてい る。

中小河川は、流域が小さく、降った雨が素早く流出してくる特性を持つ。近年では、市街地における透水性の低下や森林の荒廃による保水力の低下などによって、流出の速度は早まる傾向にある。また、河川環境に対する国民のニーズに応え、特に都市部では、親水性の河川空間の創出を進めてきており、多くの利用がなされている。こうした中で、流出の早い局地的な集中豪雨の増加に対して適切な河川管理を行い、洪水被害の軽減、水難事故の回避を図る必要がある。

ところが、局地的な大雨による洪水を予測することは難しく、大きな流域の河川のように降雨や水位を感知してからの対応では間に合わないことも多い。また、現状では河川内の利用者には、突発的な洪水の情報を伝えることが難しい。このため、短時間の降雨予測や洪水予測の精度の向上、降雨や水位の観測体制の強化、降雨や洪水の情報伝達の迅速化、情報周知の徹底など局地的な集中豪雨に対しての対応を強化する必要がある。

このような状況を踏まえ、国が管理しているような大きな流域の河川とは異なる特性を持つ中小河川において、水害や水難事故に対し「犠牲者ゼロ」を確実なものとするため必要な河川管理のあり方について、既設の「気候変動に適応した治水対策検討小委員会」において検討することとする。

なお、具体的な検討にあっては、中小河川の管理のあり方と都市河川の水難事故の二つの課題について、「気候変動に適応した治水対策検討小委員会」において審議を行うこととするが、より専門的な見地から審議の円滑化を図るため、河川局内にそれぞれ専門家や自治体の関係者を構成メンバーとするワーキンググループを設置する。

中小河川における局地的豪雨対策WG

委員名簿

- 座 長〇小池 俊雄 東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻 教授
- 委 員○木本 昌秀 東京大学気候システム研究センター 副センター長 教授
 - " 清水 義彦 群馬大学工学部建設工学科 准教授
 - 田中 淳 東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センターセンター長 教授
 - ル 山崎 登 NHK解説主幹
 - "長島 修一東京都建設局河川部 計画課長
 - " 常田 功二 石川県土木部 河川課長
 - " 富岡 誠司 愛知県建設部 河川課長
 - # 鈴木 和史 気象庁予報部業務課 気象防災情報調整官
 - " 金澤 裕勝 国土技術政策総合研究所河川研究室 河川研究室長
 - " 吉田 正 総合政策局建設施工企画課 施工環境技術推進室長

※○印は「気候変動に適応した治水対策検討小委員会」委員 ※敬称略、順不同

中小河川における水難事故防止策検討WG

委員名簿

- 座 長○岸 由二 慶應義塾大学 教授
- 委 員○中北 英一 京都大学防災研究所 気象・水象災害研究部門 教授
 - " ○藤吉洋一郎 大妻女子大学文学部 教授
 - # 片田 敏孝 群馬大学大学院工学研究科社会環境デザイン工学専攻 教授
 - ** 北川 健司 NPO法人川に学ぶ体験活動協議会常任理事 NPO法人広域防災水難救助捜索支援機構副理事長
 - " 戸田 圭一 京都大学防災研究所 教授
 - ル 杉山 孝一 神奈川県県十整備部 河川課長
 - " 森脇 康仁 兵庫県県土整備部土木局 河川整備課長
 - " 城尾 泰彦 気象庁総務部企画課防災企画調整官
 - 服部 敦 国土技術政策総合研究所河川研究部水資源研究室主任研究官 (気候変動研究チーム チームリーダー)
 - " 五道 仁実 河川局河川計画課河川情報対策室長
 - " 勢田 昌功 河川局河川環境課河川環境保全調整官
 - " 森岡 泰裕 河川局河川環境課流域治水室長

※○印は「気候変動に適応した治水対策検討小委員会」委員 ※敬称略、順不同